

岡山県の地震

令和2年(2020年)4月

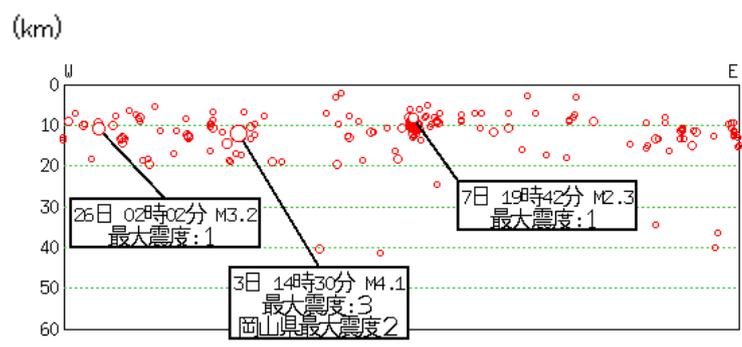
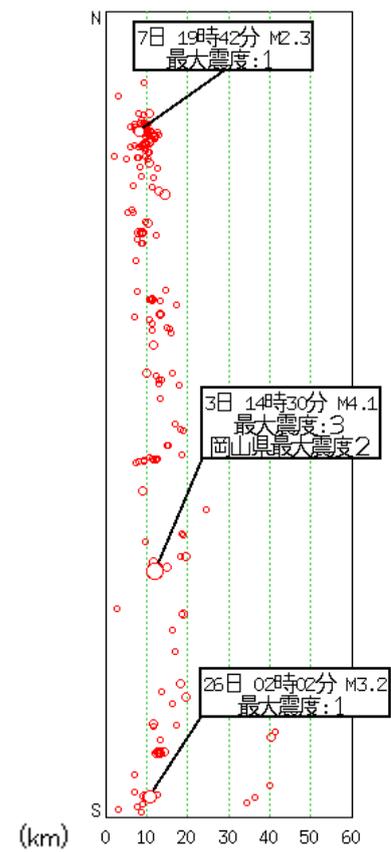
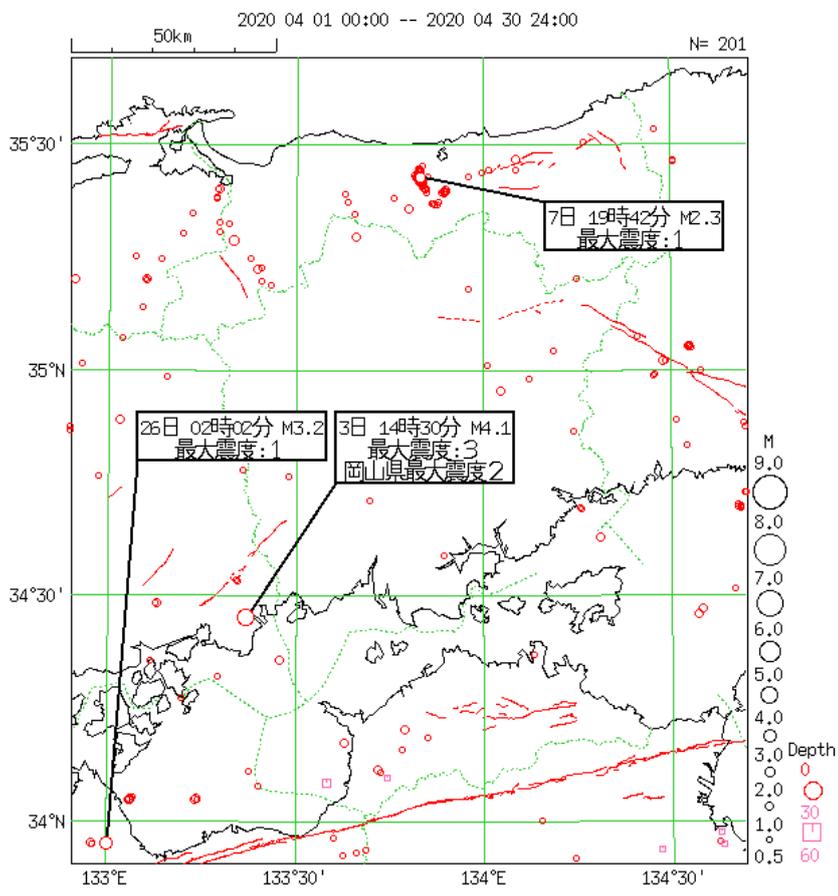
目次

○岡山県及びその周辺の地震活動（4月）	
震央分布図及び断面図	… 1
概況	… 1
岡山県において震度1以上を観測した地震の表	… 2
岡山県において震度1以上を観測した地震の震度分布図	… 2
○地震防災メモ No.172	
(地震・津波) 防災について改めて考えてみる	… 3

- 「岡山県の地震」は、月1回発行し、岡山県及びその周辺の地震活動をお知らせするとともに、適宜、社会的関心の高い地震について解説します。また、「地震防災メモ」により地震、津波に対する防災知識の普及等に努め、皆様のお役に立つことを目的としています。
- この資料の震源要素、震度データは、再調査されたあと修正されることがあります。
- 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

岡山県及びその周辺の地震活動(4月)

震央分布図及び断面図



左上 震央分布図 (地図内の細線は活断層を表しています。)
右上 南北断面図
左下 東西断面図

図中の注釈(吹き出し)は、震度1以上を観測した地震について最大震度などを表しています。

概況

4月の概況

- ・上図の範囲内で4月に震度1以上の揺れが観測された地震は3回(前月:3回)でした。
- ・岡山県で震度1以上の揺れが観測された地震は4月中に1回(前月:3回)あり、そのうち震央が上図の範囲内の地震は1回、範囲外での地震は0回でした。

岡山県における震度1以上を観測した地震表(4月)

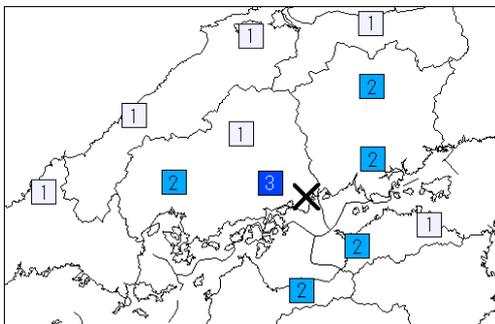
2020年04月03日14時30分 広島県南東部 34° 27.1' N 133° 22.1' E 12km M4.1
 ----- 地点震度 -----
 岡山県 震度 2: 真庭市禾津*, 笠岡市殿川*, 笠岡市笠岡*, 井原市井原町*, 里庄町里見*
 浅口市天草公園, 浅口市寄島町*
 震度 1: 新見市唐松*, 真庭市下方*, 真庭市豊栄*, 真庭市蒜山下和*, 真庭市落合垂水*
 倉敷市新田, 倉敷市沖*, 倉敷市下津井*, 倉敷市真備町*, 倉敷市児島小川町*
 倉敷市船穂町*, 玉野市宇野*, 井原市美星町*, 井原市芳井町*, 総社市中央*
 総社市清音軽部*, 高梁市原田南町*, 高梁市成羽町*, 高梁市川上町*
 高梁市備中町*, 高梁市松原通*, 和気町矢田*, 矢掛町矢掛*, 浅口市鴨方町*
 浅口市金光町*, 岡山北区御津金川*, 岡山北区建部町*, 岡山南区片岡*

- 注) 1 内容は暫定値であり、後日再調査のうえ、修正されることがあります。
 なお、地震データの確定値は『気象庁地震・火山月報(カタログ編)』に掲載されます。
 2 地名の後に*印を付したものは、岡山県又は防災科学技術研究所の震度観測点です。
 なお、震度は気象庁震度階級表によるものです。

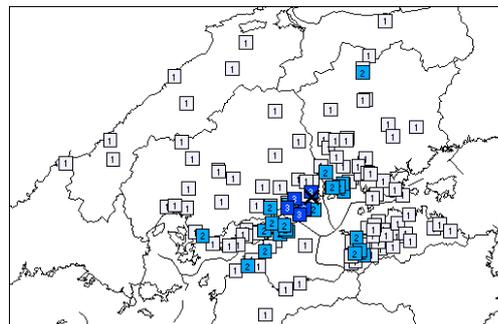
岡山県における震度1以上を観測した地震の震度分布図(4月)

2020年04月03日14時30分 広島県南東部の地震

各地域の震度分布



岡山県及び周辺観測点の震度分布



×は震央

凡例	
7	震度7
6+	震度6強
6-	震度6弱
5+	震度5強
5-	震度5弱
4	震度4
3	震度3
2	震度2
1	震度1

(地震・津波)防災について改めて考えてみる

長い時間のうちには災害に遭遇するもの>

災害のニュースを見聞きしたり、身近で災害が発生すると、災害への備えが必要だと感じると思います。一方で、「嫌なことは考えたくない。気が向かない」とか、「具体的なイメージを持ってない。現実味がない」、「関心が続かない。忘れてしまう」などの理由で、なかなかはかどらないといった状況があるかも知れません。

しかし、自らが実際に厳しい災害に遭遇した人の体験談として、「そんなことが起きるとは思わなかった。想像を超える状況だった」とか、「避難生活は大変。時間ばかり過ぎて、なかなか物事が進まない」、「もう少しきちんと備えをしておけばよかった」といった話が聞かれます。

日頃からのちょっとした心がけや備えで、いざという時に大きな被害を生じないように、なるべく困難を乗り越えられるようにしておくことが大切です。

防災の費用対効果>

防災の費用対効果とは、防災の備えのために必要な経費(時間)に対してどれだけ損失を免れられるか……を表すものです。多大なコストと時間をかければ、壊れにくいものを作って被害を小さくとどめることが可能かも知れませんが、現実の問題として、経費や時間に限りがあります。

そこで、一つの方法で十分な効果が期待できない場合は、複数の方法を組み合わせて、全体としての効果を高める方法をとります。例えば、高く丈夫な防潮堤を作れば津波の被害を少なくすることは可能ですが、ある程度までの津波は防潮堤で防ぎ、それを超えるようなものに対しては早期避難の対応をとることで被害を免れる……といったことが考えられます。

大規模地震や大津波による被害は、発生頻度は低くても極めて甚大なものとなるため、多様な備えを行うことによって大きな損失を免れるようにしておくことが、非常に重要です。また、このような広域災害に対しては、行政による公助だけでなく、自助・共助を含めた連携・協力対応ができることが必要となります。

防災の取組を進める基本的な手順>

◇地域や生活の場(家庭や職場・学校、通勤・通学経路等)の危険性を知る

市町村の作成したハザードマップや防災資料等が活用できます。実際の様子を自分の目で見ながら確認すると、よく分かったり、初めて気づいたりすることがあります。過去に発生した災害の履歴を調べたり、昔の地形を調べてみたりすることも有効です。

◇それらの危険性(災害)に対して、どのように備えるかを検討し、実行する

ハードウェア的な備え：構造物・建物の耐震性を高める。耐震固定等を行う
防災施設、防災グッズを準備する

ソフトウェア的な備え：避難場所/避難所、避難経路を確認する。連絡・安否確認の手段・方法を確認する。活用できる防災アプリ/防災情報の種類や使い方を調べる(気象庁の危険度分布資料など)

◇訓練、実地確認を行い、見直しや改善を図る

定期的に防災訓練や避難訓練を実施して、問題はないか、改善できることはないか……など、確認して見直すことが大切です。時々、多様性に配慮して訓練内容の幅を広げてみると、有効性を高めることにつながります。